キャリアパス委員会 年会企画報告

4年間のキャリアパス委員会の活動を振り返って
—将来にどう繋げるか—

小林 武彦

2018年のキャリアパス委員会主催のランチョンセミナーは、例年通り2つの企画を行いました。1つはサイエンス企画と称し、今年が岡崎フラグメントの発見50周年に当たることから基礎研究の素晴らしさを若い方に紹介させていただき企画にしました。もう一つは研究費や給与に関する企画で、事前アンケートの結果の分析から、普段聞きにくい「お金について」のセミナーを行いました。共に参加者とパネリストが双方向に意見を交換する「ケータイゴング」を使い、多くの意見が飛び交う大変盛り上がった会になりました。それぞれセミナーの詳しい内容につきましては、山本委員と大谷委員のまとめの文章と全文記録（学会HP）をご覧ください。ここでは私の4年間のキャリアパス委員会の活動を通して感じたことを少し書かせていただきます。

若者はなぜ研究者になるのをやめたのか？

まずはキャリアパス関係から。4年間の議論で一番重たかったのは、博士課程進学率の低下とポストドク問題です。アンケートなどの結果から、進学率の低下については、大きく2つの理由があることが判りました。1つは経済的な問題。もう一つは就職の問題です。実はどちらも、我々が活動を始める以前に比べて、かなり改善されてきています。博士課程の経済的な問題については、RA、TAの一般化、卓越大学院、学振のDC制度など、調べると結構なサポートがあることが判ります。大学は情報提供にもっと力を注ぐべきでしょう。もちろん欧米並みのサポートには、まだまだ及びません。目標は、博士課程学生に授業料を払わせない、生活費として15万円以上のサポートをする、ことです。これらの達成に向けて大学教員は努力すべきです。私も頑張ります。もう一つの博士課程進学率の低下の原因は就職に関する不安ですが、これは「ポストドク問題」の影響が尾を引いていると思います。ポストドク問題とは、1990年代後半から始まった大学院重点化（大学院生の数を増やす）とポストドク1万人計画により、急激に増えたポストドクがなかなか終身雇用になれないという問題で、社会現象化しました。結局打つ手がなく、未だに生命系では任期付雇用の割合は高く、あるいは転職を余儀なくされた方が少なからずおられます。特にポストドク第一世代である現在40～45

歳の方は、「団塊の世代ジュニア」と言われ、もともと人口が突出して多いこともあり、すべての分野で就職難な世代です。40代の研究者が多く応募する准教授やPIの公募は、募集1名に対して応募者数が3桁になるところもあるそうです。このポストドク問題のイメージが以降の世代にも影響を与え「博士に行っても就職がない」という風評が広がり、修士を出て就職するという流れを助長したのでしょうか。

しかし、現状はどうかということ、実は博士の就職状況はかなり好転してきています。というか逆に博士修了者が減りすぎてしまって、若手の助教を公募しても一桁の応募しか集まらないというのはよく聞く話です。また本委員会の活動も影響してか、30代の研究者の雇用の安定化政策が打ち出されました。以前セミナーで紹介した「卓越研究員制度」もその1つです。また2019年1月14日の朝日新聞の朝刊にも特集（「博士求ム！企業の採用活発」）されていましたが、企業の博士採用も着実に増えています。ですので、学部生や修士過程の学生で将来の進路に悩んでいる人がいたら、私は企業に就職することを視野に入れて博士課程に進学する選択肢があることを伝えていきます。人生100年時代、勉強できるときに思いっきりやりましょうよ。

日本が技術立国であり続けるためには

次に、視点を広げて、現在の若手が担う日本のサイエンスの将来についての私見を述べます。「日本から将来ノーベル賞級の研究は出ない」と言われています。今のままでは、おそらくそうなると思います。原因として基礎研究の予算が少な過ぎる、結果をすぐに求めるような研究に力点が置かれ過ぎる、などがあると思いますが、キャリアパス委員会の委員長としては、別の要因も考えています。それは若者のメンタリティーです。ひとこと言え、熱くない。そしてこれは若者だけの問題ではなく、私も含めた少し上の世代にも責任があると思っています。「カッコ良くない」「オピニオンリーダーがない」「研究費のこと、大学の雑務でいつもバタバタしている」「どっしりと腰を据えた研究ができていない」。いつの時代も、若者は憧れとパッションに突き動かされています。大隅先生や本庶先生は、「The研究者」という感じでカッコいいです。女性では岡崎恒子先生は、繊細でありながらも、ものすごく強い情熱をサイエンスに対して持っておられます。この先生方のように、同じ空気を吸えるだけでインスパイアされるような強いオーラを持った研究者が、私（55才）の上の世代には

おられますが、我々の世代には少ないです。50代の研究者、もうひと頑張りです。

生命科学はどこへ行くのか

最後に未来予測です。未来予測の書籍をみると、今後50年間で発展する科学は「生命科学」と「AI」が有望なようです。生命科学は、医学の分野ではもちろん大切ですが、別の分野でも重要です。プラネタリー・バウンダリー（地球の限界）という概念があります。簡単に言えば人類（地球）を滅ぼす可能性がある環境変化は何かということです。CO₂の増加などがすぐ頭に浮かびますが、実は最も深刻なのは、生物の多様性の減少だと言われています。新種はなかなか現れないわけで、生物種は減る一方です。しかも人間活動は凄まじい勢いで環境に負荷をかけています。生物の多様性の減少がいつどんな形で人類を危機に追い込むのか想像すらつかない状況です。生物学を少しでもかじった我々は、生物多様性という環境のバッファーが機能しなくなったとき、どんなに悲惨なことが起こるか想像できます。基礎研究はすぐには役に立たないが、そのうち役に立つと言われていますが、「そのうち」が案外近くに来ているのかも知れません。

いろんな方面で今後さらなる発展を遂げる生命科学を、「選択と集中」のような思考ではなく、まさに多様性を許容し広い視野を持った、いい意味での拡散拡大路線に変更して、この地球を、人類を、持続可能なサイクルへと導きたいものです。それが全ての生命科学者の務めですね。

共に頑張りましょう!!

【日本の基礎生命科学の源流と未来】

- 日 時：2018年11月28日(木) 11:30～12:45
- 会 場：パシフィコ横浜 会議センター 3階 301
- 参加者：約280名
- 講 演：木村 宏（東京工業大学科学技術創成研究院）
石野 良純（九州大学農学研究院）

2018年のキャリアパス委員会では、「日本の基礎生命科学の源流と未来」と題し、日本の分子生物学の源流から現在のゲノム編集までの最新技術、さらにはAIなどを駆使した情報システム生物学への発展を予見し、未来の基礎生命科学について考えることを目的としてランチョンセミナーを開催した。

まずキャリアパス委員の木村宏先生から、日本の分子生物学の源流から今日に至るオーバービューとして、岡崎令治先生のDNA複製機構の解明について詳細な解説が行われた。加えて、サンガー法やPCR法などDNA

複製関連の分子生物学の発展が重要な技術開発につながっていることが紹介された。講演後半では、基礎研究は厳しい状況であるが、研究の妥当性や独創性を、信念を持って伝えることの重要性が熱く語られた。また、「本当に重要な問題を解くことができれば、非常に大きな波及効果が期待できるということを語る事が重要である」という言葉がとても印象的であった。

続いて、九州大学の石野良純先生に「CRISPRの発見」として、30年前のCRISPR配列発見の経緯やその後CRISPR-Cas9がゲノム編集に利用されるようになってきた歴史について紹介して頂いた。発見当時、その機能がわからなかったものの、論文にこれらの繰返し配列について記載することができたことなど、発見者しかできない実感のこもったお話であった。講演の最後には、「今までのバイオテクノロジーの遺伝子組換え実験、それからPCR、ゲノム編集といったキーになるテクノロジーは、すべて原核微生物の分子生物学から始まっている」という内容はとても説得力のあるものであった。私自身ゲノム編集ツールの開発を行ってきたが、第一世代や第二世代は、細菌の制限酵素を改変したものであり、細菌が宿主を制御するために進化させてきたことに、なるほどと思わされる内容であった。

この後キャリアパス委員が登壇し、パネルディスカッションが始まった。このパネルディスカッションでは、ケータイゴングを用いてフロアからのアンケート結果や自由意見を取り上げながら進めた。参加者の属性は、大半がアカデミアの研究者（PIと非PI）、学生（博士あるいは修士）であったが、企業研究者の参加も見られた。今回、修士学生の参加が多かったが、これは本ランチのテーマが自身の進路を考えることにつながると考えたからかもしれない。現在「基礎研究」を行っている回答した参加者が多い中、今後携わりたい研究では、「基礎研究」に次いで「医学への応用研究」や「まだ姿が見えない新分野・異分野融合研究（基礎寄り）」を選択した方が多く、今後応用研究寄りに進みたい（進まざるを得ない?）と思う人も増える傾向が感じられた。さらに、「今後の分子生物学で発展すると思われる（興味のある）研究は？」については、「ゲノム・核酸・蛋白質科学」「疾患・発生・神経・代謝科学」と「物理・数理・情報科学・AIとの融合」が多かった。これらの結果は、分子生物学会においても応用研究に重きをおく研究者が増える傾向（の一端）を示しているかもしれない。融合研究については、AIや新技術を加えた研究について期待が大きいものの、簡単なものではないことが司会者やパネリストから実体験を含めて紹介された。

続いて行われたアンケートでは、「基礎研究をとりまく状況」についての複数の質問がなされた。回答では全体として基礎研究環境が（徐々に）悪化していると感じ

る傾向が見られた。しかし、そもそも基礎研究と応用研究を切り離すことはできず、「やはりその基盤となるべき基礎研究が大多数あって、その中から応用となり得るものが出てくる」など小林委員長からコメントされた。また、“このままでは基礎的研究が終わってしまったというような風潮”に対して、今後研究の問題設定を考え直す必要性についてもコメントされた。

国の研究への投資に関する質問では、2020年に向けて研究開発への投資が増額されることについて十分とは考えられないとの回答が多く見られた。さらにパネルディスカッションでは、研究費と任期制について議論がなされ、研究者の任期制の問題が大きく、余裕がないところでは多様な基礎研究も融合研究も進まないことが浮

き彫りになった。一方、最後の設問「独創的で科学の発展に大きく貢献できる研究ができていないか?」について、「できている」との回答が予想より多く、これは分子生物会の基礎研究を重要と考える意識の高さを反映したものとと思われる。

本ランチョンセミナー全体を通して、解明すべき基礎的な問題はまだまだ多くが残されており基礎研究は決して終わっていないこと、基礎研究が進まなければ応用研究は生まれないこと、など多くのことが印象に残った。フロアとパネリストがケータイングを通して一体となって議論できたことにも大きな意義があったと言える。

(文責：座長・山本 卓)

〈アンケート〉 集計結果 (四捨五入しています)

【問1】 あなたの年齢は？

① 24歳以下	49	27.4%
② 25～29歳	19	10.6%
③ 30～34歳	15	8.4%
④ 35～39歳	13	7.3%
⑤ 40～49歳	35	19.6%
⑥ 50～59歳	34	19.0%
⑦ 60歳以上	14	7.8%
計	179	100.0%

【問2】 あなたの身分・職階は？

① 学部学生	21	11.7%
② 大学院生 (修士)	32	17.9%
③ 大学院生 (博士)	10	5.6%
④ ポスドク	14	7.8%
⑤ 大学教員 (助教・講師・准教授)	38	21.2%
⑥ 大学教員 (教授)	31	17.3%
⑦ 研究員	10	5.6%
⑧ 主任研究員・チームリーダー・室長以上	7	3.9%
⑨ 企業	10	5.6%
⑩ その他 (技術員・テクニカルスタッフ)	2	1.1%
⑩ その他 (医師)	2	1.1%
⑩ その他 (大学職員)	1	0.6%
⑩ その他 (retired researcher)	1	0.6%
計	179	100.0%

【問3】 このセッションを何で知りましたか？ (※複数回答可)

① 学会ホームページ	51	23.6%
② 年会ホームページ	57	26.4%
③ 会報	9	4.2%
④ プログラム集	62	28.7%
⑤ ポスター	9	4.2%
⑥ 会場内の広告	11	5.1%

⑦ フェイスブック	0	0.0%
⑧ クチコミ	11	5.1%
⑨ その他 (アプリ)	1	0.5%
⑨ その他 (通りすがり)	2	0.9%
⑨ その他 (ランチョンセミナー当日配付)	1	0.5%
⑨ その他 (記述なし)	1	0.5%
※ 未記入	1	0.5%
計	216	100.0%

【問4】 このセッションを開催した時間帯はどうでしたか？

① ランチョン形式でよかった	173	96.6%
② ランチョン以外の時間帯がよかった	5	2.8%
※ 未記入	1	0.6%
計	179	100.0%

【問5】 前半の講演はいかがでしたか？

① とても面白かった	115	64.2%
② まあまあ面白かった	53	29.6%
③ 普通	5	2.8%
④ あまり面白くなかった	1	0.6%
⑤ つまらなかった	0	0.0%
※ 未記入	5	2.8%
計	179	100.0%

【問6】 後半のディスカッションはいかがでしたか？

① とても面白かった	74	41.3%
② まあまあ面白かった	67	37.4%
③ 普通	13	7.3%
④ あまり面白くなかった	4	2.2%
⑤ つまらなかった	0	0.0%
※ 未記入	21	11.7%
計	179	100.0%

【問7】 今後このような試み続けるべきだと思いますか？

① 是非続けるべき	150	83.8%
② 続けるべきだが方法を変えた方がよい	23	12.8%
③ やめた方がよい	0	0.0%
④ わからない	1	0.6%
※ 未記入	5	2.8%
計	179	100.0%

【問8】 このセッションに関する感想をお聞かせください。

- ・基礎研究は研究を行うのに最も重要、基盤となるのだということを再確認しました。
- ・基礎が如何に重要かという事。いくら重点を置いても過ぎる事はない。基礎の基礎は生命の根元。
- ・重要な知見の発見者の先生のお話は含蓄があった。
- ・大分ニッチな研究をしていて、個人的には面白いのですが社会の役に立つ研究になるのか不安もあったのですが、少し心のつかえがとれた気がします。ありがとうございました。
- ・時間がない中で、大事な話題がとりあげられていてよかった。
- ・木村先生の講演は短くまとまっていて素晴らしかった。ぜひ学会 HP で公開してほしい。講義で使用したい。
- ・分子生物学の歴史をエピソードを織り混ぜながらディスカッションできる良い機会です。

- ・改めて研究事情、特に基礎の領域の厳しさを痛感しています。ただそれでも基礎研究をします（医学部出身ですが）。
- ・知的好奇心が満たされれば役に立っている、という言葉に、勇気づけられました。
- ・若手からシニアまでの様々な世代の意見を聞くことができ、生物学の研究者を目指すうえで、何を考える必要があるのかを、見つけ直す機会になった。
- ・基礎研究の重要性や魅力をこのようなセッションで再確認・共有することは、次世代の優秀な若手を基礎研究に呼び込むためにも非常に重要だと感じました。雇用や研究費の問題など日本のアカデミアが抱える負の側面が強調されがちですが今回はこのような基礎研究の夢や責務を再確認できるよい機会になったと思います。
- ・研究への姿勢について考え直させられる良い講演でありました。
- ・山本先生の司会が上手。
- ・いろいろな話を聞いておもしろかった。
- ・研究者の意見が聞けたのがよかったです。
- ・様々な分野の話しが聞けておもしろかった
- ・若手にとっても非常に有用であった。
- ・研究者の意識を高めるには必要かも知れないと思った
- ・自分の研究がどのようにおもしろいのか、アピールすることが大切だと思いました。
- ・大変会の内容に創意工夫があり良かった。学問の源流に立ち返るような話題提供であり今後もそのような傾向で会のオーガナイズをお願いしたい。
- ・委員の中だけでなく、このように匿名で話し合う機会があることは、大事なのではないかなと思いました。
- ・基礎研究をまさにやっている生の声が聞けたことが楽しかったです。リアルタイムの意見や投票を使いながらのセッションは初めて。
- ・自分で投票することで、討論への理解度が増し、現代の研究をとりまく環境について理解することができた。
- ・様々なキャリアの方々意見を聞き、参考になりました。匿名での一般からの主張・疑問を共有できたのはよかったですと思います。
- ・コメントの中に非常にしっかりとした意見が並べられていたことをたのもしく思います。
- ・会場からのコメントに先生方が丁寧に応じて下さっていて大変勉強になりました。
- ・登壇している先生方が率直なコメントをしてくださっている点がとてもよかったです。
- ・視聴者の率直な意見を見ることができて、とても興味深かった。
- ・参加型セッションでたのしく参加できた。同じ立場の院生のコメントがきけたのも共感したりできてよかった。
- ・コメント投稿式で聴衆が参加できるセッションはとてもおもしろかった。徐々にコメントが増えてきてもり上がっているのがわかった。
- ・この形式のディスカッションは初めて参加したが、とても興味深かった。なんならあと2時間くらい欲しかった。
- ・後半になるほどウェブのコメントも本音が出始めてると感じた。さらに話を聞きたい興味深いコメントがたくさんあった。
- ・基礎研究の人が多いのは意外でした。リアルタイムで結果やコメントが反映されるのがおもしろい試みでした。今回、キャリアパスの方の参加は初めてだったので、今後も参加したいと思いました。
- ・Web からコメントを投稿できることで、忌憚のない意見がきけた。
- ・聴衆参加型のディスカッションは初めてで新鮮でした。
- ・参加型のセッションで面白かったです。
- ・会場の意見をリアルタイムでみれるのは興味深い
- ・インタラクティブでフロアの音がリアルタイムできけて興味深かった。
- ・参加のみなさんの意見をリアルタイムで知ることができたので、楽しかった。
- ・フロアからのコメントが、結構おもしろかったです。
- ・スクリーンに映し出されるコメントも参考になった。これまでの本学会の同様のキャリアパスセミナーの中で秀逸であった（優れていた）。今回のセミナーの報告書を会員に配布、発表するのがよい（考えられていると思いますが）。Academic な事がきちんと議論されていました。
- ・とても貴重な、また、スマートホンでアンケート形式は斬新でおどろきました。非常にすばしかったです。他の学会でも行ってほしいです。
- ・パネラーの半分が女性研究者であり、そのあたりの配慮も充分なされていた。それぞれの立場で意見を述べられていて大変参考になった。今後とも本企画をがんばって下さい。
- ・コメントの機能、便利ですね。もっとうまく使えるかもしれませんので今後に期待します
- ・非常に興味深かった。パネラーのバランス（背景、男女、Senior or Junior）も良い。
- ・面白かった。パネラーのスタンスも良い。
- ・基礎研究を志す者として皆同じようなことを考えているなという安心感とともに、傷をなめあっている感もした。今回の議論で現状がかわれば良いと思う。
- ・コメントについては大きなテーマがあってもいいかと。自由にかくことができるので、ひろくなりすぎるのでは？
- ・具体的なテーマにしぼると参加者にもメリットが有ると思う
- ・大多数が一部の解答に偏っていた一方で、一部にも一定数の票が集まっていたことについて、そうした少数の意見も、なぜその解答を選んだかという理由を含めて、大多数派と比較したい。
- ・コメントをもう少しすく上げてほしい
- ・設問とライブコメントにつながりがうすかった。ライブコメントに対するパネリストのコメントをもう少し聞きたかった
- ・もう少しディスカッションでのパネラーは要点を端的に話してほしい。（テンポを早くして）
- ・パネリストさんは多分、研究費をたくさんもらっている方々なので、ちょっと感覚の隔たりを感じた。
- ・文科省への提言と、その結果を、セッション始めに示してもらいたい。机上の空論になってしまう。
- ・他の学会でも似たような話をきくので状況を打開する具体的な行動までつながればよいと思います
- ・全体的に参加されている方が感じている現状への危機感、問題点は同じ、という印象をうけました。コメントにあったようにこれらを打開することが出来る外部の方を招致したらよりよいものになると思います。
- ・ディスカッションのパネリストがPIばかりで多様性に欠ける。博士課程学生、報道関係者、文科省の方を呼んでもよかったのでは？
- ・今後もこのような試みを続けるべきだが、ディスカッションで出ている各省庁役人をまねく等、方法を変えた方がよい
- ・パネリストに予算を決める側の人&マスコミの人を呼んではどうでしょう？
- ・行政関係者、一般市民等もう少し幅広いパネリストで行っても良いと思う。

- ・パネリストの人選に問題がある。座長は話し過ぎない方がよい
- ・現場の声ではなく反応を見てもらうには、省庁・企業の関係者を招くべきではないか。
- ・学会として行政に働きかける必要もあるのではないかと感じた。
- ・セミナーはおもしろかったが、この結果が、将来どのように反映されるのかが重要
- ・セミナーで終わるのではなく何らかの成果として報告してほしいです。
- ・省庁をからめるとよさそう
- ・国（財務省）の役人に入ってもらったらどうか？ 応用研究に対応するのは純粋研究ではないだろうか？ 例：IUPAC 基礎は応用を意識したことばではないか？
- ・基礎研究でも人にうける研究をする必要があるのでしょうか？
- ・基礎科学の重要性を社会に伝えるためのしくみを作りたい、できてほしいと思います。（メディアの協力など）
- ・基礎研究の重要性は、研究者は知っていると思います。一般人+省庁の人々がどうやったら理解してくれるのか。
- ・安定しなくてもいいから職を増やしてほしい。
- ・若手研究者のポジションの少なさを感じました。研究はお金がかかるから、研究者が多ければ多い程プロジェクトあたりのお金が減ってしまうのはどうにかならないだろうか。
- ・設問8は、自身の研究についてなのか日本全体についてなのかが分からなかった。明記してほしい。
- ・時間の関係で取り上げられなかったコメント・質問にもパネリストの先生のコメントを頂いて、後日みられるようになどしてもらいたいです。
- ・時間に対してパネリストが多いと思う。本音は時間を増やして欲しいが難しいならパネリストをへらすべきかと。
- ・ネットのアンケートは切実さが出ない。→心にひびかない。会場からも生の声を拾うべき。せっかく会場に来た人たちがかやの外に感じる。
- ・コメント一覧を映しているとき、わざわざ個別コメントをクリックしない方が良いです。
- ・スマホもってなくて参加できなかった。PC使えず。
- ・サブパネルが小さくて見えなかったのが残念
- ・時間が足りない。毎年のことですが。
- ・もっと時間をとった方がよい。
- ・面白いのに時間が短いのが残念だった。
- ・融合といいながら分業になっていないか
- ・なんとなくまとまりがないような。問題は数多いので仕方ないですが…
- ・今年はテーマがイマイチわかりにくい。何を議論したかったのか？
- ・毎年参加しています。今後この世界で生きていくにあたり今何が問題なのか勉強させていただいております。
- ・異なる視点からの意見もききたい。
- ・もっと過激な意見が欲しかった。
- ・面白く聞きました。
- ・新鮮で面白かったです。
- ・非常に興味深いです
- ・たいへん勉強になりました。ありがとうございました。
- ・共感できた。
- ・good.
- ・未来志向のあるすばらしい会

【問9】 来年以降のセッションで取り上げて欲しいテーマがあればお教えてください。

- ・大御所あるいは教授レベルの人たちと若手研究者、学生間での意識のギャップ。そのギャップを相互に知ることはとても意味があると思う。また匿名でないとできない内容なので。
- ・Junior Scientist Group と Senior (established) Scientist Group でのパネルディスカッション。“キャリアパス”について。
- ・修士、博士、若手のキャリアについて。何が魅力なのか、シニアの方々から聞きたい。
- ・博士へ進学したいと思うか、進学して良かったと思うか。
- ・学生によせたテーマもほしいです。（将来見すえるべき点等）
- ・次世代の育成についてとりあげては？あらかじめアンケートにこたえてもらったか？
- ・大学教育について（学部生の知識がなさすぎて、どこまで話せばいいのかわからない）
- ・基礎研究への資金の供給。若い人にどうすれば興味をもってもらえるのか。院生の就職先
- ・基礎研究と就職
- ・任期制。PI 以外のシニア研究員の進路。
- ・40代で任期なしポジションにつけない人はどうすべきか。
- ・教員（研究）の評価とは、どうあるべきか？
- ・研究費の獲得の仕方
- ・海外と日本の研究環境の比較
- ・日本の研究環境と海外との違いの問題。それに伴う研究者の海外への流出
- ・研究力、日本から外国への留学、外国から日本への留学生
- ・国際化の問題
- ・地方大と中央との研究環境の差について。
- ・企業、大学での研究の差、両者がどのように協調できるか。
- ・参加者の出身学部が知りたいです。
- ・学生と教授のキョリのとり方について
- ・文化としての科学
- ・続きを！
- ・このテーマは毎年やっていってもよいと思う。
- ・異分野（物理学・数学・コンピューター）の方もパネリストにおよびして、「本当の融合研究は可能か？ 融合研究とは何を指すのか？」

- ・医学研究の位置づけ。医学部の目から見ると予算や意識?が極端に高い。医学は実学、Scienceとは異なると思っている。
- ・私は留学の形で一時的に研究に携わっている身です。学生さんも多いようなので、遺伝子工学などのテクニックや基礎的なプログラムもあると思います。
- ・AIの利用について。
- ・最近の細胞死についての知見
- ・Epigenetics
- ・miRNAの今後
- ・エルゼビアと研究者コミュニティの関係。Nature, Cell, Scienceとオープンアクセスジャーナルの位置づけ。
- ・働き方改革と、研究職について
- ・働き方改革と研究時間の確保
- ・なぜ余裕が無いのかと議論した方が良い。色々あるはずで、本質的な問題も見えてくるかも。
- ・教育と研究の両立。教育負担の軽減方法。研究所がうらやましい。
- ・育児参加の実体
- ・女性研究者(子育て中)のキャリアパス
- ・女性研究者のキャリアパスについてお聞きしたいと思いました。
- ・(重要な知見の発見者の先生のお話は含蓄があったが)それでもワークライフバランスのお話し
- ・過去にあったのかも知れませんが、研究不正の多さと、それが正しく処分されていない現状から、研究不正を取り上げてほしい。
- ・どうしたら文科省を変えられるのか
- ・財務省・文科省の役人をよんで研究の危機的状況の理解を深めてもらう
- ・コメントにもあったように役人を交えての討論があっほしい。

【問10】 本年会での属性調査(添付資料)をご覧ください。感想をお聞かせください。

- ・女性のPIを増やすことが重要だと思う。
- ・女性のスピーカーが極端に少ないように感じた。
- ・「正会員」の中の女性率が低い。原因は何でしょうか。
- ・女子学生は多いのに、大人の女性は少ないですね。女性は、研究を続けるのは、難しいのでしょうか。
- ・学生会員は女性が1/3以上いるが正会員は1/4程度。それはなぜなのか。
- ・男女比について学生会員に対して正会員の女性の割合が低い点が印象的だった。
- ・学生は38%いた女性が正会員では20%しかいない。今後20%がどんどんあがっていくと良いと思う。
- ・やはり学生以降の女性は少ない。
- ・男性の教授が多い
- ・男性が多い
- ・6~7年前、EUから一時帰国で参加した時には女性のchairがほぼ“0”で驚いたが、かなり状況が変化していて安心した。
- ・女性の活躍が前年以前と比べ促進されているというのは喜ばしいことだと思います。
- ・オーガナイザー、スピーカーの比率が会員の男女比と近い比率になっているのは好印象だった
- ・オーガナイザーだけでなくすべての男女比は個人会員の男女比と相関しています。女性は若い年代が多いが、30歳以上から激減している。基礎研究は何のためにするのか不明確な時が多いので、女性には基本的に向かないのではないだろうか。直接医療の改善、向上と結び付くテーマでなければ女性研究者は増えないことでしょうか。
- ・そもそも女性で会員になっている人が少ないのは何故だろうか。女性は学生と正会員で比率が大きく変化している。これは企業へ就職する比率が女性が高いのか。
- ・男女比の点では適正なのだと思う。
- ・かなりバランスがとれてきた。
- ・よそうどおり。
- ・予想通りだった
- ・他の学会と比較すると、比較的、女性が多い印象を受けた。
- ・元々生物学を志す男女の母数に差があると思うので、特に、女性だから不利だ、というようなことはないように思う。
- ・男女を意識しないことが均等化につながるのではないかと感じた。
- ・女性研究員が少ないため、女性の数を上げるために、募集要項に「女性優先」と書くことはしかたがないと思うが、逆差別になっていると思う
- ・思っていたよりも女性発表者が多く、性差関係なく発表できる場だと思った
- ・最も参加すべき博士課程の方の出席が少ないので気になります。
- ・博士課程の人がもう少々多くてもよいと思う
- ・博士課程の学生が少ないのは心配
- ・修士の若い大学院生が学会に来られるのはすばらしいと思う。自分が院生のときはなかなか行かせてもらえなかった。DC1とれてやっといけるようになった。
- ・男女比についての結果が可視化されており、分かりやすくてよかったです。学生会員の割合が、思っていたより多かったです。
- ・これまでの調査とあわせれば、若手や女性がどの時点で壁があるのかわかりそう。
- ・男女比について、焦点をあてていますが、海外ではどうなのか、参考として載せてくださると日本の立ち位置がわかると思います。学生では女性が多いですけど、それ以降になると割合がかなり減っていることが印象的でした。
- ・高齢化しているようです
- ・どう読みとれば良いか困りました。
- ・今ひとつ意味がわかりにくかったです…
- ・結論がちょっとよくわからない
- ・想像していたセッションの内容と違ったので、あれまちがえた??とあせりました。内容はおもしろかったです。
- ・少し見づらい部分もあった。
- ・ま、分子生物は大きい学会ですから。
- ・なし

【問 11】 その他、ご自由にどうぞ。

- ・クレジットカードをもっと使えるようにしてほしい。どの列がクレジットを使用できるかわからなかった。
- ・学会の Free WiFi が会場内で接続できなかったので接続できる会場で実施してほしいです。
- ・もっと大きい箱で、人数をふやしてやるべえ！
- ・会場が狭い。もっと広い会場が必要。
- ・Twitter のハッシュタグ付きで、コメントをひろってほしいのかなと思いました。LIVE 配信して、より一般に向けて発信していてもいい内容だと思った。
- ・このアンケートもウェブで答えるようにすると手間が省けます。
- ・個別意見としてできたものを次期テーマに反映しては？
- ・後半の設問に「その他」の項をつくり、コメントを入れてもらおう、などのサイトの工夫があってもよいかと思います。研究費で雇用していただいている身なので、産休・育休後が不安です。
- ・とくに大学の場合ですが、優れた結果を出した方ほど実験からはなれていくことが多いのはもったいないと思います。
- ・大学教員の研究以外の業務の拡大が研究時間をへらす要因になっており、さらに働き方改革の波もしのびよっており、研究者の生態には全くそぐわないモノなので不安です。
- ・はやりでなくまんべんなく研究を支援してもらいたいと思います。なかなか人にうけいられない研究はどうしたらよいのでしょうか
- ・私個人としては研究は個人に属するべきものであり、社会や政治などと無関係であることが重要だと考えている。学問の多様性が最も重要で、その中で淘汰されていけばよい。しかしあくまで研究のオリジンは個人の興味にあるべきである。しかし最近では未知のものを研究することに対してリスクしか評価されないで研究費は配分されないでしょう。これからは社会への貢献が期待されるものばかりの研究しか日本にはなくなります。新規の研究は消えるはず。
- ・国際化を推進することも重要。外国人研究者を多く呼び寄せることが日本の科学にとって大事。
- ・私の恩師が繰り返しおっしゃったことを書きます。「基礎研究は何が当るかわからないので、少額でいいから、できるだけ多くの人に配分すべき。その中でヒットが出たら、多額を投入すべき」です。

〈ケータイアナライズシステム〉

〈アンケート〉 集計結果（四捨五入しています）

練習設問：皆さんの属性について教えてください。

・学部学生	25	12.3%
・大学院生（修士）	41	20.1%
・大学院生（博士）	16	7.8%
・ポスドク、助教、講師、准教授、研究員等の非 PI 職	40	19.6%
・独立助教・講師・准教授、主任研究員等の junior PI 職 （非テニュア・テニュアトラック）	11	5.4%
・教授等の PI 職（テニュア）	25	12.3%
・企業	16	7.8%
※未入力	30	14.7%
計	204	100.0%

設問 1：現在のあなたの研究は次のどれに属しますか？

・基礎研究	133	73.5%
・医学への応用研究	26	14.4%
・疾患検体などを用いたトランスレーショナルリサーチ	2	1.1%
・農学・工学への応用研究	10	5.5%
・その他	10	5.5%
計	181	100.0%

設問 2：あなたが実際に携わりたい研究はどれに属しますか？

・基礎研究	72	37.9%
・医学への応用研究	44	23.2%
・疾患検体などを用いたトランスレーショナルリサーチ	7	3.7%
・農学・工学への応用研究	13	6.8%
・まだ姿が見えない新分野・異分野融合研究（基礎寄り）	38	20.0%
・まだ姿が見えない新分野・異分野融合研究（臨床寄り）	12	6.3%
・その他	4	2.1%
計	190	100.0%

設問3：今後の分子生物学で発展すると思われる（興味のある）研究は何ですか？

・ゲノム・核酸・蛋白質科学	45	23.2%
・疾患・発生・神経・代謝科学	69	35.6%
・物理・数理・情報科学・AIとの融合	64	33.0%
・農学・植物学	5	2.6%
・宇宙学	9	4.6%
・その他	2	1.0%
計	194	100.0%

設問4：研究成果の速やかな社会応用を求める風潮は、特に基礎科学研究者のマインド低下をもたらしています。基礎研究をとりまく現状をどう感じていますか？

・楽観できる状況にある	9	4.8%
・徐々に悪化している状況にある	64	34.0%
・危機的な状況にある	115	61.2%
計	188	100.0%

設問5：公的研究費の基礎研究と応用研究の配分比率は現状のままでいいと思いますか？

・いいと思う	24	13.6%
・いいとは思わない	152	86.4%
計	176	100.0%

設問6：2017年度版の「科学技術白書」（文部科学省）では、日本の科学研究がこの10年間で低下していること、イノベーションを生み出す基盤的な力が急激に弱まっていることが指摘されています。これを立て直すための取り組みとして、2020年に向けて研究開発への投資が増額されることになりましたが、この取り組みで十分であると思いますか？

・十分だと思う	26	14.9%
・不十分だと思う	149	85.1%
計	175	100.0%

設問7：（設問6で「不十分だと思う」と回答され方は）必要だと思う取り組みをお答えください。

・研究費の増額	32	20.0%
・適正な競争原理の導入	17	10.6%
・積極的な任期制の導入と人材の流動性	24	15.0%
・（長期安定した研究環境を保障するための） 任期制の撤廃と運営交付金などの一律増額	87	54.4%
計	160	100.0%

設問8：現在、（ノーベル賞につながるような）独創的で科学の発展に大きく貢献できる研究ができていますか？

・できている	47	27.0%
・できていない	127	73.0%
計	174	100.0%

コメント一覧

No	ハンドルネーム	コメント
1	TT	テニユアトラックは本当に機能しているのだろうか？
2	かねつぐ	基礎研究の重要性を社会的に周知するためにも、研究機関とメディアとの付き合い方が重要だと感じる。
3	具体的に	融合はどうやって推進していくのか？
4	GTC	CRISPRの話は、非常に参考になりました。わけのわからないものを研究している身として勇気付けられました。
5	アップルウォッチ	修士は就職すべきか進学すべきか？
6	のん	基礎研究は何の役に立つかわからないのは最もであるが、役に立たなくて良いと開き直っている研究者がいるのは問題だ。昨今の風潮を受けて、社会貢献のビジョンを自ら示して行く必要はあると思う。
7	そもそも	基礎研究と応用研究とはどうわけるのでしょうか？
8	コロン	アンケート結果で「トランスレーショナルリサーチ」への興味が低いことにコメントをお願いします。
9	日本の科学におけるプレゼンスが低下しつつあることについて	お金で解決できるなら予算をつぎ込めば良いのですが、大学教員に余裕がなかったり、志望者の減少ということが原因なら、方策を真剣に考えなければならないのでは？
10	咲良	分野を横断することが重要と仰っていましたが、その一つ的手段である留学に関して、そのメリット等を先生方自身の経験からお話いただけると幸いです。
11	a	日本初の研究が欧米でビジネス化され日本の基礎研究への還元が割合として少ないのではないかと
12	とても良いディスガシオン	I am a scientist from China. We never had this kind of discussion in Chinese academic meetings. I think it is a very good experience for me. This kind of discussion will stimulate the young scientists to think seriously how to contribute to innovative science
13	学	現代の社会（一般の方々）は知的好奇心を満たしたいのだろうか。情報過多すぎて、研究に興味を示す人が年々少なくなっている気がします。研究者はどのような情報発信をすればいいのでしょうか？
14	SK	社会貢献が先んじると謎なものに対する興味が薄れてしまう。謎の解明への好奇心+応用力をパラレルで発揮するのが大事だと思う
15	実験系の	這い上がりはむずかしいですね
16	元サラリーマン	ヒトは何かを役立てたいと思った時、研究にバイアスが生じる可能性がある。したがって、基礎研究は何か役に立てるといよりは真実を追求することを目的として欲しいです。バイアスのない基礎研究の積み重ねが応用研究に繋がると信じています。
17	基礎研究費	いくらあれば十分？
18	C	現在修士で進学を予定しています。女性研究者は非常にかっこ良いと思ひ憧れです。研究者として生きていくためには海外でポストドクなど今後経験を積むべきと思いますが、出産・育児など年齢を考えてしまう部分もあります。
19	らんた	応用研究に多額を投資するのは構わないと思うが、現場での無駄遣いが過ぎると感じている。それなら、基礎研究にももう少し配分してよと思う。
20	ぶろっこりー	若手研究者は基礎研究費の配分を増やすために何ができるのでしょうか
21	匿名	役立つべきという風潮に引っ張られた結果、ただの細胞やマウスで出た成果が、あたかも「ヒトのXX疾患に役立つ（かも）！」というような大風呂敷なプレスリリースは、結果として基礎研究の価値を下げると思います
22	学生	比較的新しいテクノロジーの原理や使い方、グラフの見方についての授業がほぼなく、20世紀の研究についていけない。
23	やりたい研究を決めるには	医学に応用できるような生物学基礎研究をしたいとは考えていますが色々なアプローチ法があり具体的にどんな研究をしたいかまで決められません。大学院進学を考えているので決めた方がいいのですがどうしたらやりたい研究を決められるのでしょうか？
24	Ma	科研費申請で、波及効果を重要視して書かせる印象があるのですが、

No	ハンドルネーム	コメ ン ト
25	シルバーポストク	任期付きのプロジェクト研究で雇用される不安定な身分が多く、若い人が基礎研究に没頭できる環境にないのが問題
26	部外者	基礎研究を本当に盛んにしたいなら、このセッションに各省庁の役人をパネリストに招かないも、内輪で話しても進みません。または、ノーベル賞受賞者に働きかけて声明を出すことを検討すべきです。
27	そもそも	上限なんてないので十分と思うことはない
28	匿名	大学の教職員は、会議や雑用に追われて、満足な研究をする余裕が無いのが現状です。文科省が大学をコントロールしようと過剰な干渉をしている事が問題ではないでしょうか。
29	修士	基礎研究は面白いし続けたいけど、ドクター行った後の先が見えないのが怖いです
30	博士学生	役に立たない、知的好奇心を満たすためだけに、税金をどのくらいつかうのか、と言われると、国家としてはすでに余裕がないようにおもいます。やはりなんらかの形で役に立つ可能性がある、というプレゼンテーションが必要だとも思います。実際に役に立つかは別でよいのですが。
31	教授	うちの大学では 20 代 30 代の若手研究者向けのポジションが非常に不足しており、深刻な問題だ。
32	企業は	現状、基礎研究にどのくらい寄付をしてくれているのでしょうか？
33	学会が研究支援の団体となつては？	良い研究に対する支援を学会が積極的に担うため、クラウドファンディングなどを含めた支援の仕組みを提案したい。ただ、今のようなボランティアベースの運営では難しいと思うので、アドバイスや審査のできる専任者のいる事務局があると良いと思います。そういう団体へのキャリアパスも生まれます。
34	納税者	私の血税はあなたを教授にするために払ってるんじゃない。還元してくれ。
35	こ	研究費ももちろん大切ですが、基礎研究にじっくりと取り組むためには、任期付きでない常勤のポストに若い方が着きやすくすることが何よりも重要だと思います。
36	匿名	試薬等々が非常に高価に感じて購入を渋ります
37	基礎研究費	長期安定は、本当に重要です。
38	修士の学生	特にポストクの人達の不安定さや将来のポストの少なさを見ているとどうしてもドクター進学を躊躇してしまいます。
39	学	ダーウィンの様に、一生定職に就かずに、研究に取り組みたい（夢）
40	佳境	やる気のある人が残るのはいいが、研究進める気がない人が任期なしで居座っていると若手にとってはとても厳しい
41	シニア助教をきらないと	人材の流動はうまれない
42	男性研究者の方々	若手研究者の時、結果が求められる中、家族サービス等は十分にできましたか。
43	シルバーポストク	任期と流動で研究キャリアが積み上がらない
44	某准教授	研究費があれば改善するのでしょうか？新学術の計画班の先生方、実感はいかがですか？
45	それでも基礎研究	自分の在籍する大学では、アントレプレナー養成や産業界で活躍するイノベティブな人材を育てることばかりに尽力していて、知的好奇心を満たすことや純粋に研究がしたい学生を支援するシステムが皆無に近い。こういった状況がさらに基礎研究を志すモチベーションを低下させる。
46	KS	海外の雇用システムと比べるとどうなのですか？
47	部外者	大きな成果を生み出す基礎研究を振り返ると、成果の創出に時間を要しています。省庁は3～5年での数字での成果を財務省などから求められるため、数字に繋がる短期的な成果を生み出しやすい小ぶりの研究に注力する傾向が強いです。個人単位でのアプローチでは、財務省を含めた省庁は動きません。
48	地方私大	うちは任期なしですが、怠けて研究をやらない人がいるのも事実。業績評価をボーナスに反映させるなど、適切な評価方法が必要では？
49	ノーベル賞	国家としては、ノーベル賞受賞者を輩出することにより、経済的にはどのようなメリットがあるのでしょうか？
50	fy	誠実な研究者を選別するためにも研究者の評価を何によってなすのかというのが、大切なのだと思う。評価軸は何が適切だと考えますか？

No	ハンドルネーム	コメント
51	評価しばり	大学は自己評価外部評価など評価評価で金縛り、これは研究費や大学院生の処遇にも波及していて、論文発表、学会発表の数を競う風潮、セコイ発表がふえている。
52	某私立大院生	生命分野ではやはり国立大学が国から多くお金をもらえていると思います。私は私立大学の院生ですが、お金がないことには研究ができません。この差は仕方ないのでしょうか。
53	業績評価	業績は論文数だけでなく使ったお金、人数で割って見たら？
54	コアファシリティ	共同で使える施設にもっと予算を。
55	p	研究費など既に研究携わっている人への投資もだが、高校生などが早いうちから将来の研究に興味を持てるような制度への投資も不十分だと感じる。
56	普及のために	ホリエモンのようなマネジメント上手を呼べばいいのでは。
57	図書委員	ジャーナルの購読費、論文掲載費用の高騰も問題だと思います。大学教員に配分される運営費の4割以上がジャーナル契約用の費用として引かれています。
58	ポスドク	優秀な学生さんが研究者の不安定な立場を嫌って博士課程にすら行かなくなっているのが現状と思う。いかに身分を安定させるかが、優秀な人材の確保に重要だと思う。
59	任期制	任期制が素晴らしいシステムならば、官僚が身を以て証明してほしいですね。

【研究にまつわるお金の話】

- 日 時：2018年11月29日(木) 11:30～12:45
- 会 場：パシフィコ横浜 会議センター 3階 301
- 参加者：約280名
- 講 演：小林 武彦（日本分子生物学会キャリアパス委員会 委員長）

ランチョンセミナーでは、まず小林委員長から、第4回日本分子生物学会男女共同参画実態調査(回答数1,788名)の結果をサマライズしていただきました。女性の研究者が少ない理由として、「家庭と仕事の両立が困難」「育児・介護期間後の復帰が困難」。対策としては「可能な限り業務の効率化を図る」「ライフイベント中の研究者の生活環境を整備する」という、これまでも当委員会で提唱してきたこと以外に、生命科学系では他分野と比べて「任期付き」の職が30代を超えても多いという特徴が紹介されました。また、指導的地位の女性比率が低い理由として、男女の意識のずれがある、つまり「上司として女性が望まれない」「評価者に男性を優先する意識がある」と女性は思っているが、男性は必ずしもそのようには思っていないという結果が示されました。そして先進国で女性研究者の割合が最低の日本で、女性比率改善のために行うべき措置として、「業績評価におけるライフイベント等の考慮が必要ではないか。研究支援者の配置。女性を積極的に採用する」こと、そして、「多様性の受け入れ。無意識のバイアスの自覚から離れていく」ことが重要だろうということでもとめられました。

次に今回のテーマ『研究にまつわるお金の話』に関するアンケート結果の分析に移りました。例年のアンケート調査からここ数年で関心が増えていたものの、取り上げにくいテーマであった研究に関する「お金」を今回テ

マとして取り上げ、8月30日～9月12日にアンケートを実施しました。回答者数は608名(学生111名、管理職でない方(NPI)257名、管理職の方(PI)240名)で、最近のアンケート調査の中でもかなり多くの回答が寄せられ、皆さんの関心の高さがうかがわれました。まず小林委員長から、このお金に関するアンケート結果のサマリーをしていただきました。前半は、大学院生の生活費に関するお金の話、後半は研究費に関する話です。大学院生で学振のDCをもらっている人は回答者の3分の1で、DC以外の方でサポートを受けている人の金額は4万～20万円と大きく差がありました。卒業後の進路は以前に比べて、アカデミア指向が若干減り、企業や公務員への進路希望も増え、進路に多様性がでてきていると分析されました。非アカデミアで就職を決めている方・企業にお勤めの方のアカデミアに行かない理由は「収入が不安定」だからというのが一番多かったです。また、「減少傾向にある博士課程進学率は、どうしたら増加すると思うか」については、「経済的サポートを充実させる(授業料も取らない)」「博士号取得者の就職を有利にする」という2つの方向性が示されました。「PIになるために必要なものは何だと思うか」について、Non-PIは、「研究実績、人脈、研究費、人間性」と回答、PIは「研究実績、運」でした。また、PIに対して「研究室運営について困っていること」は、「継続して研究費を獲得する難しさ」「PIが研究・教育以外の雑務にやりくりする時間の多さ」「研究費の採択率の低さ」が上位3つでした。研究費については「競争的資金の集中」「競争的資金の配分額」「研究分野の多様性の欠如」が起こっているのでは、との不安・不満の声があり、ランチョンではトップダウン形式で研究分野がきまる日本医療研究開発機構(AMED)や、新学術領域研究について取り上げることになりました。

その後、パネリストが登壇し、ランチョンセミナーの参加者とケータイングを利用した双方向性のパネルディスカッションが行われました。議論のテーマとして、事前アンケートの結果や自由記載の内容を踏まえて、以下のトピックスを取り上げました。

「大学院生の生活費と研究を支える学振特別研究員DC（若手研究者への提言）」「若手向けの研究費は必要だけどシニア・ミドル向けの研究費って必要？」「AMEDと新学術領域研究の紹介」「研究費が不足して困ったときの対処法」「研究費の選択と集中に関する是非」「科研費審査システム改革 2018 の紹介」、そして最後に、「公的研究費でどのような研究を主としてサポートすべきですか？」という質問を問いかけました。

「大学院生の生活費と研究を支える学振特別研究員DC（若手研究者への提言）」については学振の審査の公平性について、ケータイングの質問に入りましたが、パネリストたちからは①申請書の体裁と内容がまず基本として重要、そして、②業績は学会発表もありだから、学会に行こう、そして、③学会で発表や質問を積極的にいき、ビジビリティを上げよう、特に「質問」でもビジビリティは十分に上がる、若手の皆さん頑張りましょう、ということで意見がまとまりました。

「若手向けの研究費は必要だけどシニア・ミドル向けの研究費って必要？」のテーマでは、①若手向けの研究費は必要だけど、同時にアイデアがないと有効には使えない、②シニア・ミドル向けの研究費も重要で、それは若手の雇用費につながり、これも結局若手のサポートにつながるというご意見ができました。

次に、事前アンケートで新しい研究費の紹介をしてほしいという意見を踏まえて「AMEDと新学術領域研究の紹介」をしました。まず小林委員長から、AMEDについて、医療に関係する9個の統合プロジェクトを見識のある専門家をボスとしてトップダウンで研究を組織するというAMED特有のしくみを説明していただき、採択経験のあった司会から、設立当初と比べて現在は、臨床の出口指向だけでなく、基礎研究が重視されていること、現状として若手研究も多く採択され、若手研究者が応援されていることが紹介されました。一方、トップダウンではなく、ボトムアップ式の科研費の利点（応募者が多いと研究費が増えるなど）も分析・紹介されました。新学術領域については、同じようなテーマでチームを組んで行う研究、という基本概念が領域代表経験者から説明されました。しかし、枠が少なすぎる、若手が入る余地がない、と問題点が指摘された一方で、新学術の最終評価には、若手育成をしたかが問われる、という矛盾が指摘されました。新学術は枠が小さいが、やはりビジビリティを上げるため、申請することは必要、との意見が繰り返されました。

次の話題「研究費が不足して困ったときの対処法」については、パネリストと会場の参加者から意見をいただきました。①共同研究をやる、という意見は多く、②科研費（や民間助成金）を次年度に繰り越しておく、③限られたお金の中でできる研究を絞る、③論文を書く、あるいは新しいことを勉強する、などの意見がだされました。パネリストから、「研究費の話は、この業界の偉い先生がたくさん国会議員になって、財務省に影響力を及ぼさないとダメじゃないですかね」、という発言があり、お金の問題は文科省のみに働きかけてもだめで、財務省に働きかける動きを作らないとだめではないか、との意見もできました。実際にアメリカではこのようなことは行われていて、それくらいやらないと、国家のポリシーは変わらないだろうとなりました。この流れを受けて、会場から、「分生党の結成」、「胡桃坂先生、ぜひご出馬を」とのコメントが出てきて、会場は大いに盛り上がりました。

次に「研究費の選択と集中に対する是非」についてのトピックスを取り上げました。その結果、高採択率・低額な研究費を、という回答が圧倒的に多くなりました。研究費という研究基盤が保証されていないというのは大きな問題、もちろん低額でも安定的にもらったほうがいい、という意見が大半でした。次に、分科細目がなくなって大きな枠組みが変わり、異分野の審査員が審査することになる「科研費審査システム改革 2018」については、①知り合い同士の談合みたいなものなくなる、②異分野の研究者にもわかりやすい提案をするようになる、という肯定的な意見が多くなりました。

そして最後に、「公的研究費でどのような研究を主としてサポートすべきですか？」という質問に対しては、「将来実用化につながる可能性のある研究」「実用化には関係なくても生物学の神秘を追求する研究」の両者をバランスよく(50:50)といった意見が最も多くなりました。「実用化には関係なくても生物学の神秘を追求する研究」が二番目で、「将来実用化につながる可能性のある研究」のみをサポートする意見は非常に少なかったです。

まとめると、学振特別研究員申請に向けても研究費獲得に向けても、若手研究者が人前で発表や質問する機会を与えることが、学会の重要な役割のひとつで、それはその研究者のビジビリティにつながり、それが将来につながるということが認識されました。そして実際に研究費を増やすには、文科省だけではなく、財務省にも働きかけなければ、研究費のことは何も変えられない、ということが指摘されました。また、研究費がないときの対処法の提案や、若手研究者の姿勢についての提言も多く共有され、若手研究者に対し、今後の研究費獲得に向けて、様々な面で積極性が必要である、ということを示すよい機会になったと思います。

(文責：座長・大谷 直子)

〈アンケート〉 集計結果（四捨五入しています）

【問1】 あなたの年齢は？

① 24歳以下	27	17.0%
② 25～29歳	13	8.2%
③ 30～34歳	24	15.1%
④ 35～39歳	16	10.1%
⑤ 40～49歳	41	25.8%
⑥ 50～59歳	29	18.2%
⑦ 60歳以上	7	4.4%
※ 未記入	2	1.3%
計	159	100.0%

【問2】 あなたの身分・職階は？

① 学部学生	11	6.9%
② 大学院生（修士）	18	11.3%
③ 大学院生（博士）	16	10.1%
④ ポスドク	21	13.2%
⑤ 大学教員（助教・講師・准教授）	39	24.5%
⑥ 大学教員（教授）	27	17.0%
⑦ 研究員	8	5.0%
⑧ 主任研究員・チームリーダー・室長以上	6	3.8%
⑨ 企業	9	5.7%
⑩ その他（技術員・テクニカルスタッフ）	3	1.9%
⑩ その他（記述なし）	1	0.6%
計	159	100.0%

【問3】 このセッションを何で知りましたか？（※複数回答可）

① 学会ホームページ	38	20.7%
② 年会ホームページ	36	19.6%
③ 会報	6	3.3%
④ プログラム集	63	34.2%
⑤ ポスター	8	4.3%
⑥ 会場内の広告	25	13.6%
⑦ フェイスブック	1	0.5%
⑧ クチコミ	5	2.7%
⑨ その他（ランチョンセミナー当日配付）	1	0.5%
⑨ その他（記述なし）	1	0.5%
計	184	100.0%

【問4】 このセッションを開催した時間帯はどうでしたか？

① ランチョン形式でよかった	152	95.6%
② ランチョン以外の時間帯がよかった	6	3.8%
※ 未記入	1	0.6%
計	159	100.0%

【問5】 前半の講演はいかがでしたか？

① とても面白かった	67	42.1%
② まあまあ面白かった	62	39.0%

③ 普通	26	16.4%
④ あまり面白くなかった	0	0.0%
⑤ つまらなかった	0	0.0%
※ 未記入	4	2.5%
計	159	100.0%

【問6】 後半のディスカッションはいかがでしたか？

① とても面白かった	87	54.7%
② まあまあ面白かった	51	32.1%
③ 普通	10	6.3%
④ あまり面白くなかった	3	1.9%
⑤ つまらなかった	0	0.0%
※ 未記入	8	5.0%
計	159	100.0%

【問7】 今後このような試み続けるべきだと思いますか？

① 是非続けるべき	134	84.3%
② 続けるべきだが方法を変えた方がよい	19	11.9%
③ やめた方がよい	0	0.0%
④ わからない	2	1.3%
※ 未記入	4	2.5%
計	159	100.0%

【問8】 このセッションに関する感想をお聞かせください。

- ・他のラボの研究環境を知るきっかけになりました。
- ・研究員・ポジションの問題は役に立つ
- ・このような議論の場はよく考えるとあまりないと思いました。ぜひこれからも、何かしらの形で進歩して下さい。
- ・とても興味深く将来の参考になりました。
- ・研究内容とは違う、面白い話が聴けた。
- ・PIの方が多く、意見交換がさかんでよかったです。
- ・とても面白かった。もっと時間をかけても良い。胡桃坂先生と小林先生が面白い！！
- ・学部生でもわかりやすい内容でおもしろかったです。
- ・大変ためになる話が聞けました。ありがとうございました。
- ・いろいろな情報が得られて良かった。
- ・いい話が聞けました。どうもありがとうございました。
- ・おもしろかったです。研究費の総額を増すために、学会としても頑張ってください。来年の研究費について不安に思っています。
- ・パネラーの方々の、若い方への率直なご意見は参考になりました。前半の講演は、軽妙で良かったです。
- ・リアルタイムでみなさんの意見をきける点がとてもよい。また、匿名で意見を述べられるのも、みなさんの生の声がきけるからよいと思った。
- ・投票やコメントが気楽にできてよかった。参加型でおもしろかった。
- ・このような方法だと正直に意見が言えるのでいいと思いました。
- ・聴衆が聞きたい内容を適切に説明できる。あきない。
- ・パネルディスカッション+聴衆参加型方式おもしろい。
- ・Discussion が、Frank でおもしろかった。
- ・クルミ vs コバタケの会
- ・胡桃坂先生すばらしい。
- ・スレッドで口コミが good
- ・参加できるところがよかったですね。
- ・皆さん、どう考えているかよくわかりました。
- ・当たり障りのない内容でした。
- ・しゃべるパネリストとそうでない人の差が大きい。学生、若手などの意見をもっとすいあげたい。
- ・パネリストも匿名でいいので、もっとぶっちゃけた意見をききたいです。
- ・新学術は地方で孤独にやる研究者にとって分野コミュニティで情報を得る良い機会になるので、少額で良いから入れてほしいです。
- ・新学術でも言われていましたが波及効果がなくなっていると思います。昔は学部・研究所に機器が入って、皆が使っていたが、そういう事がなくなった。
- ・お金が欲しいのはみんな一緒。欲しい欲しいではなくサイエンスの発展にどうお金を使うかだと。
- ・つらいのは皆同じだということが分かった。もっとコメントをベースに議論を進めてほしい。
- ・コメントの選択が、司会者やパネリストの興味に偏っていたように感じます。

- ・研究費をもっている先生たちだけで、正のループにうらやましくなりました。PIがお金をもっていて、機材もそろっているラボと、昔（学生時代）いたラボとのちがいに驚きました。学生当時、そもそもラボに博士の学生もいなくて、学振の制度も初めてきく、といったラボだとドクターのキャリアパスが見えない。（学会へもお金なくてこれないので、このようなセミナーの存在もしらない）
- ・リアルタイムのコメントに「いいね」がつけられると、もっとよかった
- ・事前にコメントやアンケートしてると面白い？
- ・ケータイを使ったインタラクションが活かしきれてない
- ・コメントに対して投票できるとよいと思いました。投票数の多いコメントについて、議論して頂きたい。
- ・なかなか現状の改善は難しい事は、わかった
- ・今の若手は優遇されているなあという感じ
- ・審査で、若手>おじさんなら、その時点で公正性がないのでは？
- ・PIになるための研究費の獲得や努力、こつなどを知らなかった。
- ・ポスの人間性及び頭の良さが最も人生を左右するのではと思いました。財務省は、税金をもっと科学に。年金ではなく…。
- ・個人研究（基盤）vs グループ研究（新学術）にはもっとスポットライトを当てては。限られた予算をどう割り振るかは、難しい問題。
- ・学生の生活費などの〔私的なお金〕と研究費など〔公的なお金〕を一緒くたに議論するのは無理があるのでは。前半の講演はアンケート興味深かったが早すぎ。
- ・研究費制度の説明は23分でもスライドを示してやって欲しい。スライドなく話を聞くのはつらい。
- ・お金のアンケート結果も早送りすぎたので添付していただけるといいと思います。
- ・制度について、もう少し、選ぶ側の意見・制度の趣旨を話してほしい。
- ・現状を知るためにとても興味深いですが多くの点で、特に助成金、収入の不安の解消に関してはあまり役に立たないように思われました。
- ・現状について議論しているが解決法についての議論が欲しいと思った。
- ・問題の共有はできたと思いますが具体的に、根本的な解決につながるものが何かできればもっとよいなと思います。
- ・キャリアパスについて理解を深められるのは良いが、具体的になにができるのか打ち出せばより良いと思います。
- ・将来の夢などで研究者は上位だそうですね。老人に聞いても似たような感じだそうです。でも実際は会社員になってしまう現状をなんとかしたいです。
- ・出席者の意見も生で披露できるなどよい企画でした。ただ一部、最初から答えが決まっている設問もあったようです。
- ・審査のコメントの開示は、（点数だけでなく）通った場合も絶対に参考になるので是非やってほしい。
- ・私も運営費交付金が少ないことが一番問題だと思う。
- ・基礎研究、教育の軽視は財界の影響。学会も政府に働きかけるべき。
- ・科研費の重複制限を減らす提言をして欲しいです。
- ・結論を提言として文科省、厚労省に送ることはされていますか。そのような「出力」の報告があると良いと思います。
- ・役所の力関係はあれ、財務省の役人を実際に呼ばないと変わるものも変わらないのでは？ DCについては名前が公開されているので、ちゃんと業績の有無を確認して数字で語るべきでは？
- ・分生として、国への提言を出すとかできないでしょうか？ 海外の植物系学会はしています。
- ・分生党作りましょう。博士課程の授業料を安くしてほしい。
- ・出馬うんぬんの話は夢があってもおもしろかった。
- ・これからもやって国にも働きかけてほしい。
- ・官の人が居るといいとおもう
- ・面白い。ただ、若手とPIと両方向き、2日にわけて若手向きとPI（+非PI）向きに分けてみては。
- ・似たようなテーマでも、何年かの間隔をあけて息長く続けて下さい。
- ・時間が短い。
- ・よかった
- ・とてもおもしろい
- ・面白かったです
- ・良かったと思う。
- ・勉強になりました。
- ・ゆるくてまあまあ楽しかった。
- ・何事も続けることが大切。
- ・Just fantastic!
- ・特になし

【問9】 来年以降のセッションで取り上げて欲しいテーマがあればお教えてください。

- ・若手や若い人が研究員になるためにやるべきことを聞きたいです。
- ・具体的なキャリア獲得の一例。
- ・将来が見えないミドル研究者の処遇について。
- ・博士以降の道が不安、という声を見かけたので、多様なキャリアパスを描くためにキャリアパス委員の先生方だけでなく、その出身でアカデミア以外の方をパネリストとして来てほしい。
- ・若手の海外進出（留学）について。
- ・海外の研究環境と日本の研究環境の比較
- ・海外と比較して日本の科学の現状や将来について。
- ・企業勤めでも論文になるような研究ができればいいと思うので企業勤めの研究者の話が聞けたらと思います。
- ・良いラボの習慣、教育など。
- ・働き方改革と研究職について
- ・研究者のワークライフバランス
- ・アカデミアにおける複（副）業の取り扱い。→柔軟にしてほしい。
- ・研究費申請について、自分の通るといふ感覚と実際の結果の比較
- ・PIになるための研究費の獲得や努力、こつなどを知りたい。

- ・制度について、もう少し、選ぶ側の意見・制度の趣旨を話してほしい。
- ・奨学金免除制度を復活させるべき。
- ・年金、社会保障、オリンピックへの投資、国家安全、科学、地方自治体へのバラまき…のパーセンテージの改善へのアピール方法
- ・お金の話のつづき。
- ・国民へのアウトリーチ。
- ・バブコメはわりと効くと思います。
- ・政治家（大臣？）、文科省や財務省の役人も参加してもらい、日本の大学研究・教育ビジョンを討論する。
- ・政治
- ・誰を議員に推薦するか
- ・研究者だけでなく役人も交えてディスカッションしてほしい。
- ・今話題になっている研究倫理について。
- ・胡桃坂先生と筑波大学の落合陽一さんの対談を聞いてみたい。
- ・特になし

【問 10】 本大会での属性調査（添付資料）をご覧になった感想をお聞かせください。

- ・まだまだ女性は少ない。
- ・意外と女性が少ない
- ・女性が思ったより少ない。
- ・女性比率は低い
- ・女性は正会員になるとへるんですね。
- ・学生の女性の割合が正会員（全体）で減少したことは、女性が研究を続けていく難しさを表していると思った。
- ・女性研究者が少ないのは、一般と同じ。家事に占める女性の比重が高すぎる。男性の協力ないしは第三者のサポートが得られない限り解消しない。多くの女性研究者は未婚なのでは？
- ・女性管理職…。
- ・希望とのずれは？（女性は本当に研究したいのか？）
- ・なぜ女性比率が低いことが問題なのか？
- ・女性の意見は耳を傾ける必要はあると思うが、比を気にする必要はないと思う。
- ・全体で女性の割合が少なくなるのはあたり前。男女別に母集団をとってそのうちの割合を示すべき。たぶん男女の割合が同じくらいになると思う。
- ・妥当。
- ・現状で十分。
- ・良い結果だと思います。
- ・比較的女性がが増えて活躍している感じで良いと思います。
- ・賛否はともかく、女性がどんどん進出していることを感じる。
- ・他の学会の調査との比較で違いがあるかどうか知りたい
- ・これからも分子生物学会が改善をリードしていく学会であると感じた。
- ・図が多く分かりやすい。
- ・見やすくまとめて頂きました。御苦勞様でした。

【問 11】 その他、ご自由にどうぞ。

- ・論文の投稿費も増えているのに、研究費はへって投稿を増やせ、とはいかに…？
- ・研究設備の集約／大学多すぎ？
- ・研究費以外の支援方法
- ・国家公務員・財務省うければよかったな…。(笑)
- ・博士課程から財務省というキャリアも面白そうだと思います。
- ・長期的視点で科学教育政策をさせるべき。
- ・今後は優秀な若手は研究を志さなくなるでしょう。将来が明るくないです。
- ・博士の官公庁採用を増すべき。分子生物学会と生化学会は統合するべきでは。
- ・wifiを強化して下さい
- ・特にはありません。

〈ケータイアナライズシステム〉

〈アンケート〉 集計結果（四捨五入しています）

練習設問：皆さんの属性について教えてください。

・学部学生	19	10.2%
・大学院生（修士）	31	16.7%
・大学院生（博士）	18	9.7%
・ポスドク、助教、講師、准教授、研究員等の非PI職	50	26.9%
・独立助教・講師・准教授、主任研究員等の junior PI 職 （非テニュア・テニュアトラック）	14	7.5%
・教授等のPI職（テニュア）	27	14.5%

・企業	13	7.0%
※未入力	14	7.5%
計	186	100.0%

設問 1：日本学術振興会特別研究員—DC（学振 DC）は申請内容によって決まる公平な制度だと思いますか？

・思う	95	55.6%
・思わない	76	44.4%
計	171	100.0%

設問 2：若手研究者向けの研究支援（科研費の若手研究など）についてどう思いますか？

・若手を支援するのは適切（当然）と思う	164	90.6%
・若手のみに偏重していると思う	17	9.4%
計	181	100.0%

設問 3：（設問 2 で「若手のみに偏重していると思う」と回答された方）ミドル・シニア向け（概ね 45 歳以上）の研究支援をもっと増やすべきだと思いますか？

・増やすべきだと思う	62	78.5%
・必要ないと思う	17	21.5%
計	79	100.0%

設問 4：新学術領域研究についてどう思いますか？

・良い制度だと思う	60	35.3%
・あまりよくない制度だと思う	36	21.2%
・応募したことがないのでわからない	74	43.5%
計	170	100.0%

設問 5：（学生以外の方）研究費が不足して困ったことはありますか？

・ある	86	72.3%
・ない	33	27.7%
計	119	100.0%

設問 6：低採択率で高額な研究費（つまり選択と集中）と高採択率で低額な研究費のどちらが良いと思いますか？

・低採択率・高額な研究費	28	17.6%
・高採択率・低額な研究費	131	82.4%
計	159	100.0%

設問 7：科研費の審査方法が変わりました。「審査システム改革 2018」の審査方式についてどう思いますか？

・良くなった	31	19.5%
・悪くなった	17	10.7%
・わからない or 審査システム改革 2018 を知らない	111	69.8%
計	159	100.0%

設問 8：公的研究費でどのような研究を主としてサポートすべきですか？

・将来実用化につながる可能性のある研究	5	3.6%
・実用化には関係なくても生物学の神秘を追求する研究	55	39.6%
・上記両方の研究をバランスよく（50:50）	75	54.0%
・わからない	4	2.9%
計	139	100.0%

コメント一覧

No	ハンドルネーム	コメント
1	cak	海外のように有名人がドーンと投資したり、科学への投資がお金持ちの中でステータスにならないでしょうかね！
2	.	アンケート受付期間短すぎませんか？ n 数が少ない。進学を聞く質問はアカデミアの中でも留学かどうか聞いた方がよいかと
3	f	むりやり女性比率をあげて誰得？
4	Aaaaa	先生方が給与サポート大事だと本当に思われてるなら具体的に行動を起こしていただきたいです
5	学生	大学院を奨学金で行くにしても返すのも大変だなと思います。
6	無名	私の研究室も年中ケチケチキャンペーンをしています。
7	YUKI.N	奨学金引き落としが 25 日にあって、預金残高が 130 円です助けてください
8	とりにー	お金が無さすぎて FBS すら買えません。助けてください。
9	大学院生です	ボスが何もせずに年収 800 万なのになんで実験してる僕たちはタダ働きなのですか？
10	PD	科学者は清貧であるべきという考えは改めた方がよい！
11	HT	公平な制度であっても、研究室で申請書に対するサポートがあるかないかで変わってしまうのでは？申請書慣れた PI が手を入れた申請書には、普通の学生では勝てないと思います
12	うーん	完全な公平はあり得ない。それを考えると十分では？
13	Lemon	DC 本当にありがたいです
14	学部学生	周囲に、博士後期課程進学は就職や経済面で大変と言う人が多くいますが、本当ですか。
15	。	DC 関連の仕事をしている方の生徒が優遇されている
16	学振	DC は不公平な制度だ。有名ラボなら研究内容は良いに決まってる。業績はあるに決まってる。PI のチェックなんて入るに決まってる。落ちた自分の僻みです。
17	SK	前から気になってたんですが、ラボに破産のような概念はあるのですか？あるとしたら具体的にどういことが起こるのですか？
18	Hdy	何故 DC → PD の転換で給料が上がらなくなってしまったのですか？家庭持っていると生きてくのがきつすぎです。
19	無名	質問しても誰だか分からないことも多いのでは？
20	nk	不思議な勝ちというのはありますが、負けた申請者はやはり問題があるのだと思います
21	東工大	大学の授業料が 10 万値上がりしました。サポートどころじゃないですね。
22	DC ゲットだぜ！	頑張って書いた学振申請書はポストクの先生や PI に跡形も無く修正が入りました→2 回目で通りました。
23	ちょっと年寄り	日本語でしっかり文章を書く力は大事です。これは自身にも言いかせています。
24	博士号取得者の就職を有利にするには	メディアで博士号取得者の有能性をアピールしてみてもどうでしょうか？世の中には、博士号取得者がコミュニケーション能力に欠けている、頭がかたい、勉強しかできない、みたいに偏見を持っている企業人も少なからずいるようです。しかし、自分はそうは思いません。企業で使える能力は養われると思います。
25	DC	確かにラボによるところはある
26	Lemon	積極性はとても大事、ということですね。
27	Hdy	若手に支援しても結局お金はラボに吸い上げられるんですよー。
28	胡桃坂先生	すごく面白い。コメントに味がある。講演会をやってください。
29	りんご	17 番さんのお話気になります、ラボに破産はあるのか、あったらどうなるのか
30	伊達正夢	研究費審査システムは、破綻している。パネリストのコメントは、きれいごとだと思った
31	DH	研究費を増やすのは、年代別の問題ではないと思う
32	当事者	指導層に余裕がないと、教育に力が入れられません。

No	ハンドルネーム	コメント
33	助教	助教募集中ですが、まったく応募がなく困っています。
34	将来性が重要では？	学生に対する目先の給料やサポートよりも、将来つけるポジションを増やすべきではないでしょうか。
35	Lemon(DC)	立場を考慮した配分も大変なんですね…
36	ハンドルネーム	学生で奨学金の返済がある人、いくらくらいですか？1000万以上の人なんてやっぱいないですよ。
37	ー	より高確率で採択される、低額の研究費種目があるとありがたいです。
38	atom	なにをもって支援か。ビジョンがみえない。若手には100パーセント金銭的にも環境的にも研究に集中できる環境を。それで次のキャリアが構築できないなら、本人の問題であり、それならドロップアウトすればよい。別のキャリアを構築すればよい。別に死ぬわけじゃない。
39	ミドル	人を安定して雇用できるようなミドル向け研究費を増やしてほしい。これは若手のためでもあるのでは。
40	ミドル	若手が減っていることが重要な問題です。
41	若手の方が取得した研究費に関して	ボスが若手の研究費はラボのものだと言い切っていますが、それは本当なんですか？大学院生
42	はくし	こういうイベントに文科の人とか呼ばないのですか？
43	A	企業に就職した同期と比べて給料は少ないです。もし研究が好きの人でも、慎重な人なら給料の低いアカデミアには残らないと思います。
44	A	独立准教授です。若手とシニアの間に立ちはだかる40の壁に直面しています。若手枠のように中間層をターゲットとする研究費も欲しい。
45	ns	申請書作成に力を入れすぎて、実際の研究がすまないことはないですか？本末転倒？申請、審査疲れしてないでしょうか。
46	学部生	現所持金12円。来年以降も生活費と学費進学費を捻出したら他には何も残りません。
47	41の話	それほんとに絶対ダメです
48	YUKI.N	トップダウンでもいいですが、トップがダメだと全部ダメになるのでは…
49	あいう	前に教授が時給半額という条件で受け入れるというような話を留学生にしていた。研究職が闇労働とならなければいいが…
50	fy	ミドル研究者が研究費を得て恣意的に自身の研究室の若手に与えるのは、公平性の観点で問題があるのでは？
51	若手40代	学生への経済的支援は、企業との人材獲得競争という点でとても重要だと思います。現状、優秀な学生がどんどん企業にとられているように見えます。
52	Hdy	AMEDっておじさん達の為の研究費？若手が参入する余地があるんでしょうか？
53	AMED	数年で結果を求められて報告書も多くて大変
54	伊達正夢	AMEDの春と秋の調整費のシステムは、研究費の配り方として、ほんとダメなシステムだと思う。
55	→47	PIがそのような考え方をされてる場合、改善していただく方法はないのでしょうか。
56	PD	企業は仕事初心者の人間にもきちんと給与を払う。なぜ大学院に行く人間だけ学費持ちだしなのか？せめて博士に行く人間には全員学振レベルの給与を与えるべきと思う。
57	えーめど	生命科学と医学が同義になってきているが、理学系の研究費枠を増やすと、自然に基礎研究も充実すると思う
58	dh	うちの教授は、どうせ出したって当たらない、と言って録に申請すらせず、私と助教の科研費と財団にたかる屑野郎です
59	YUKI.N	申請書描き続けてるうちに研究時間が削られるのでは…
60	Hdy	AMEDの採択には特許を持ってるかどうかがとても重要だと聞きましたが本当??
61	胡桃坂先生	good job
62	AMED	AMEDって名もない私大はリーダー大学を通してしか申請できないんだっけ？
63	DC	申請出さなきゃ採択もない
64	修士	56に賛成！

No	ハンドルネーム	コメ ン ト
65	dh	AMED や新学術などの大型予算は、所属期間は判断基準に入りますか？うちのような、無名の底辺私立大学にもチャンスはあるのでしょうか…
66	→ 55	話が通じないようならハラスメント窓口に行くしかないですが、ご自身の立場も大切に考えてください。
67	Hdy	昔の特定領域と何が違うんですか？
68	YUKI.N	新学術領域に申請したら「前例がない」って落とされたって話が…。新しいとはなんなのか。
69	atom	新学術の若手枠を作るとよい。代表などもすべて若手で構成。
70	ミドル	新学術が無くなるなどのうわさはありますが、日本型グループ研究はなくならないと思います。
71	Hdy	そう！通らない！今年こそうちの先生の領域を通して！！
72	新学術	公募が少ない、分野がマニアック。特定領域の方が分野が広がったと思う
73	研究報告書について	「ごめんなさい色々こんなことあんなことやりましたが全て Negative Data になりました。結果出せませんでした」と報告書に書いたら怒られますか？期限内に結果が出せる自信が無くて、申請を躊躇してしまいます。
74	ミドル	文科省の人間来てますよ。ちゃんと伝えておきます。
75	若手 40 代	新学術領域なくして全部科研費じゃダメですか？
76	私大	私大ブランディング予算の次はどうなるのか？
77	いも	パネリストのコメント、無難すぎて、申し訳ないけど、ちょっとつまらない。
78	運営費交付金	科研費よりも AMED よりも運営費交付金の減らしが止まらないことが問題
79	50 代若手	新学術の公募のある割合はお友だち優遇にみえます
80	PD	じゃあ、財務省の人間を呼べば良いのでは？
81	g	何歳まで若手？
82	Hdy	ちなみに若手って何歳まで？
83	名無し	文科省の役人よりも財務省の役人を呼ぶべきでは？
84	パネルの先生方へ	学生、若手 PD に対する支援不足についてもっと議論してください。コメントの半分くらいは学生の不満だと思います。
85	しゃべり過ぎと言う胡桃坂先生	なんだかんだ一番しゃべっている。が、マイクを取った時のドキドキが止まらない
86	新学術	計画と公募の重複応募を認めてほしい
87	dh	そう、出さなきゃダメなんですよ！聞いてっか？この屑野郎！
88	atom	研究費がない場合はお金のかからない研究をすればよい。
89	年寄り	政治にもう少し皆んな関心を持たないと、研究環境はよくなりません。
90	YUKI.N	次世代かけられないの、本当に苦しいです。
91	失われた世代 40 代	最初は運営費交付金で雇われていましたが、その後ずっと競争的資金で任期付きで長らく彷徨って生き続けています。つらい。
92	→ 66	ハラスメント窓口行きましたが、まだ結果は出ていません。日本有数の研究機関で勉強させていただいているので、そういった自浄作用があると期待したいです。ありがとうございます。
93	ぶろ	雇用人数を減らしてでも運営費交付金増やしてほしい。
94	博士課程	省庁に行くことも考えているのですが、どこに行くのがお金の課題を解決する上で良いのか何かご意見ありますでしょうか？
95	hoge	研究費の話は、この業界の偉い先生がたくさん国会議員になって、財務省に影響力を及ぼさないとダメじゃないですかね。
96	学生時代からリッチな経験ない人間	共同研究
97	atom	研究費がないならお金がかからない研究をすればよい。そういうネタを考えておくのも必要かと。

No	ハンドルネーム	コメント
98	研究費	民間の一部の研究費のように、使用年限をなくすか、繰り越しを5年くらいに伸ばしてほしい
99	tu	グループ研究をしている先生に助けてもらいました。
100	50代若手	人に泣きついたことは何回もあります
101	A	研究費が途切れた時は例年にまして財団助成に出しました。焦って空回りしました。それ以来、お金がなくてもできる研究を一生懸命考えるようになりました。
102	大学院生	公務員になって、自分のところのようなくだらない研究をしているボスのラボにお金がいらないよう、もう少しいい使い方をしてもらえるところに渡るよう頑張ります
103	無名私大 PI	困らなかったのは、たまたま研究費がゼロにならなっただけです
104	dh	過去の偉い人の不正のお陰なのか、科研費の使用目的が関連研究に限られるようになって、新しいテーマに着手しづらくなったのが辛いです
105	名無し	分生党の結成
106	hoge	胡桃坂先生、ぜひご出馬を（笑）
107	山中先生	総理になって欲しい！切実に。
108	屑野郎と誰かさん	ここで喧嘩しない
109	Ns	お金が見こせなくて一番辛いのは、雇用です。どんなに一緒に働きたくても、給料を払えないのが、つらいです。
110	今はボスですが	昔はボスのゴーストライターをしてよく申請書を書いていました。その際に「大風呂敷を広げればいいんや！」と言われていました。実現性のない申請書に辟易したものです。
111	Hdy	じゃあ胡桃坂先生、是非に政界に！先生のテンションなら行けそうです。
112	大学生	国に頼りきりになっているのは気のせいでしょうか。日本ではなかなか難しいかもしれませんが
113	配分機関のものですが	お金の切れ目ができることはやはりあるかと思います。その時つなぎのためにどういったサポートがあればいいのでしょうか？お金が切れると折角組んだチームを解散しなければならないのは勿体ないとは感じています。
114	院生	分生だけだと狭いので、科学技術推進党を。
115	企業	経営陣からオープンイノベーションやれやれと言われてお金の使い道に困ってます。先生方からも研究の営業活動お願いします！
116	はくし	他分野だとクラウドファンディング型の資金が人気出てきてるイメージ
117	採択率	低額すぎると人を雇用できない。中程度の額と採択率がよい
118	Hdy	採択率と額の関係性は一概には言えないですね。若手向けに偏らせるのはさすがにやりすぎ。
119	胡桃坂先生	の元で修行させてください m(_)_m
120	ミドル	この質問は良くないですね。こういう結果になったからと言って国が動くと思えません。
121	tu	人件費もまかなえる額がないと。
122	研究費	ミドル以上は、プロジェクトではなく、人に対して、長期の研究費を保証する。ポストも安定して、重複応募も減る
123	50代若手	研究員を1人雇えるくらいの中くらいの研究費を増やして欲しい
124	YUKI.N	流行りが次世代での絨毯爆撃になっていて、お金がみんなにないと話になりません。今日本の研究者のほとんどが竹槍で戦ってるのではないのでしょうか。
125	PD	我々は常に世界と競争しており、先を越されるのではないかという不安と戦っている。そこに輪をかけて金銭面で不安を持たせるなんてナンセンス。衣食足りて礼節を知るだと思ふ。
126	ある PI	低額な研究費とは、どのくらいの額を想定しているでしょう。例えば、科研費の基盤のほとんどは、外国と比較すると、そもそも高額研究費ではありません。
127	名無し	研究の規模にあった申請をしていますか？とりあえずたくさん、とれるだけ、って申請していませんか？
128	いも	研究費のゴーストライターもあれば、審査員のゴーストレビューアーもある。
129	学生	日本の基礎研究のお金の問題は、一般の方のサイエンスに対する理解の無さが根底にある気がします。

No	ハンドルネーム	コメント
130	科	科研費とらない人はどうやって金を稼いでいるのか？
131	Hdy	学振みたいに自分で自分を雇用できる制度をもっと増やして欲しい。
132	名無し	国のお金に頼るのではなく、それ以外の研究費の収入源を見つけなくてはいけないのかも。
133	高額な研究費	昔は年度末になるとお金が余って、つまらないものまで買わされたこともありました。
134	申請書	新しい研究業績の書き方を教えてほしい
135	あ	低採択率の現状ではお金もらえてない人の数の方が多いので、多数決とったら高採択率希望者が多くなるのは当然の結果
136	若手ポストク	業績リストは従来通りでいいと思う。今までの積み重ねを重視するのは悪いことではないと思う。
137	年寄り	合議制で決めるのは良いが、負担はたいへん
138	Tfuji	科研費の申請書に対するフィードバックとして、全てのコメントを開示してほしい。無いなら無いのも開示しなくちゃ、なんか書いても。アメリカだと、レビューコメントを返してくれるとききました。
139	小林先生	学会でよい質問をしたら、科研費のポイントアップしてほしい
140	tu	短期間では判断できない。
141	業績欄	なんで基盤Cや若手研究で業績欄が無くなったんでしょうか?! もちろん業績が全てでは無いが、もともと業績が全然無い人に金をやっても結果は出ないでしょう? ステップアップ出来ないじゃないですか! はっきり言って愚かしいですよ! 改悪!
142	質問	質問って評価されませんよね
143	名無し	生物学がどんどん複雑化していくのに対してわかりやすい申請書を求める風潮はいかがなものかと思えます
144	前に出たくても	それを許さないボスの場合どうすればいいんでしょうか
145	科研費ポイント	コメントの時間が無いなら各項目の点数くらいは教えて欲しい。
146	50代若手	新しい科研費の審査の良し悪しは来春の結果を見てみないとわからないですね
147	審査	異分野に面白く同分野に重要と思われるように書く
148	dh	コンピュータ関連の業界では、学会発表が我々の論文に相当しますが、ライフサイエンスでは学会のステータスが余り高くないと思う
149	Ns	学会での質問は、知的好奇心にもとづくものもいいなあ。
150	Hdy	おもしろかったです!
151	財務省	我々の意見を決定するのは、国民の皆様のご意見です
152	物理系の学生	最近物理とか情報科学が生命科学に貢献しているが、学振とかで出す審査区分にすごく困る。特に学振は物理とかの区分で出すしかないので評価がかなり不安定でしんどい。
153	は	研究って莫大なお金かかるわりに結果出ないもの多いですよ、お金取れない研究はしなくていいのかもしれない
154	BMED	医学系の学会のパネルディスカッションは付度コメントだらけだけど貴学会はざっくばらんで楽しかったです。当日チケットが最後まで残ってましたがまさに残りものに福があるという感じでした。
155	競争的資金	のせいで、むしろ予算がないのに給料もらってる人が増えているのでは?
156	151は	ジョークとしては面白い
157	tu	送りこむのは経団連
158	DC	最後の質問、答えなんて分かりきってる
159	145について	各項目の点数はわかりますよ。落ちた場合どこが悪かったかは分かる。素人ですか?
160	部外者	2~3年でポストが変わる省庁にphDが増えても変わりません
161	いろいろ考えるきっかけになりました	来年も是非このようなディスカッションをやってください